りょうかわ

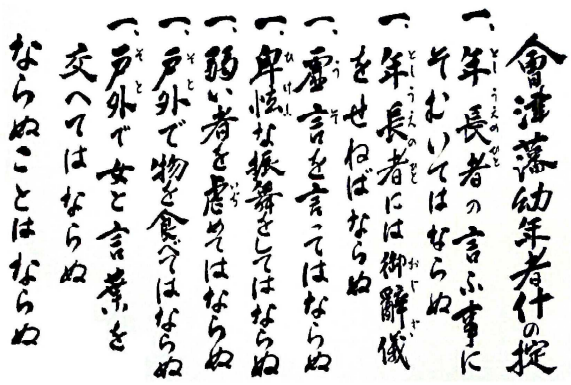
学校だより　令和2年9月14日発行　第9号　新潟市立両川小学校

「１０の掟」を胸に創り上げた会津の旅

校長　　中村　雅芳

９月９日（水），１０日（木）の２日間，６年生は修学旅行に行ってきました。これまでの佐渡から会津へと訪問地を変え，初めて挑んだ修学旅行でした。新しい修学旅行を創っていくにあたり，子どもたちは会津藩校 日新館「什の掟」をお手本に「両川小学校 １０の掟」を自ら制定しました。

1　あいさつや返事は誰にでも気持ちよくします
2　相手の気持ちを考えて話したり行動したりします
3　感謝の気持ちを伝えたり行動で表したりします
4　よく考え正しい行動をします
5　自分から尋ねたり相手の話を聞いたりしてコミュニケーションを取ります
6　手洗いをしマスクをつけて衛生に気を付けます
7　みんなのために自分が行動し自分の役目を果たします
8　会津の人やものを大切にします
9　自分の活動の後を振り返り片付けをします
10　当たり前のことをきちんとします



【お手本とした什の掟】

幕末には約４年間，会津藩が治めた両川地区です。この「１０の掟」は，時代を超えて引き継がれた魂の現れではないだろうか。‥そんなふうに運命や必然を強く感じました。ご先祖様と会津藩士たちの目には見えないつながりを想像しながら，その歴史の積み重ねの最先端を生きる自分たちに誇りをもちながら，会津の文化や歴史に触れ，自分の生き方を見つめ直す２日間にしてほしい。それが，出発前の私の願いでした。

２日間，６年生と一緒に過ごす中で，私が期待した以上の言葉や姿を様々な場面で見ることができました。

まずは１日目の班長会で，各班長から語られた言葉です。

「日新館で体験した座禅で，お坊さんから＜体験は自分を知ることにつながる＞＜苦手なものは自分が決めてること。挑戦することで自分を変えられる＞という言葉を学びました。また，集中すると，時間が短く感じられることも学びました。私は今後，集中力を高めていろいろなことに挑戦し，自分を変えていきたいです。」

「今日のカヌー体験，自分にとっては初めてで，最初は怖くて難しかったです。けれど，仲間を信じて，リーダーとして指示を出しながら，仲間と協力することでカヌーの操縦がうまくいくようになりました。そして，最後まで楽しく，成功して終えることができました。チームワークがどんなに重要かわかりました。これからも大事にしていきたいです。」

２日目の班別自主研修では，次のような訴えと，姿が見られました。

「校長先生，昼食を予定していた場所で，お店の人から『団体客が急に入ったので提供できる時間が遅れる。待っていてほしい』と言われたのですが，私たちも次の予定があるので断りました。新しい昼食場所を探しているのですが，どこかいいところを知ってますか？（→飯盛山の参道にある店と，道路を挟んだすぐ向かいの店と，JR会津若松駅前にあるであろう店を紹介）‥ありがとうございます。みんなの意見を聞いて，しっかり決めたいと思います」（しばらくしてから）「いろいろな意見があるので，私たち，ハイカラ号（バス）で会津若松駅まで出てみます。集合時間には遅れないようにします。」（その後またしばらくして携帯電話で）「校長先生，私たち会津若松駅前でお店を見つけました。これから入ります。ご心配下さってありがとうございました。」

結局この班は，駅前でおいしい食堂に入り，それぞれが食べたいものを食べることができました。さらに，次の研修場所にも遅れずにたどり着き，最終集合時間にも余裕で間に合うことができました。相手の都合による急な予定変更にも慌てずに，班員みんなの意見を集約し，残り時間を意識しながらも未知のことに果敢に挑んでいく姿。心から素晴らしいと思います。

この班だけではなく，どの班も様々な予定変更に対してみんなで話し合って結論を導き出し，柔軟に対応していたと，他の職員からも聞きました。そして，すべての班が，集合時刻の１４時に遅れることなく鶴ヶ城会館に集合できたのです。１日目で学んだことが，行動となって実を結んだ姿だと感じました。両川小学校１０年の歴史に，新たな伝統を加えた素晴らしい修学旅行でした。６年生ありがとう！

最後に，褒めることだけでなく期待も綴ります。それは「大勢の前でもっと大きな声が出せればなあ」ということです。どんなにいいことを思っても，どんなにいいアイディアを考えついても，適正な声量で，相手の目を見て話さなければ伝わりません。そしてこのことは，６年生だけでなく，子どもたちみんなに言えることです。コロナ禍で声を出すことがはばかられる雰囲気がありますが，適度な距離を保ち，適正な声で表現することは，どんな場面でも大切にしてほしいと思います。みんなに期待しています。